

牧野毛晴 まきの けい 小説家、美術評論家。明治二十七年九月二十五日愛知縣生れ、昭和二十一年十一月二十一日没（九〇四一五七）。本名勝彦。

筆名伴鏡太郎、朱門、瀧亭戀慕、牧野浩一等。東京殖民貿易語學校支那語科卒。また川端畫學校の學び、日本畫を描いて昭和五年の聖徳太子奉贊展に入選。次で美術誌『東陽』編輯に當り、傍ら毎號美術評論を執筆。十四年岸崎千郎、宮澤有為男等と『文藝日本』を創刊して小説、轉じた。

著書『軍馬』（昭和十七年八月十日日本文林社）、『母』（内題「日本の母」昭和十八年一月二十日金鈴社）、『野人武魂』（昭和十八年二月二十日地平社）、『朔風』（昭和十八年九月一日金鈴社）、『凱歌』（昭和十九年二月二十日文園社）、『軍馬』（昭和十九年六月十日春陽堂文庫出版）



株式會社「春陽堂文庫（大衆小説篇）」）、『青山白雲』（昭和十九年十一月二十日日本雄辯會講談社）、『女同志』（昭和二十一年十一月十五日湊書房）、『青雲館の女たち』（昭和二十一年五月二十日艸又社）、『激流・第一部』（昭和二十二年一月十五日日本雄辯會講談社）、『無淫者一代』（昭和二十二年一月十五日豊文社）、『受手開眼』（昭和二十二年四月十五日同人社「昭和名作選書」）、『虹の誘惑』（昭和二十二年十一月十日日本雄弁會講談社「ロマン・ハックス」）、『悲願の的』（昭和二十二年四月十日日本雄弁會講談社）、『代表的時代小説・4「昭和二十二年度」』（合著・日本文芸家

協会編、昭和二十二年九月一日東京文芸会社）、『海の鉄波面』（昭和  
四十四年七月二十一日浪速書房株式会社）等。

